

三原市市議会議員

# 正田洋一

## 議員レポート

第13号

正田洋一事務所

〒723-0062 三原市本町 2-11-12

TEL 0848-63-0085 E-mail info@shoda-yoichi.jp HP www.shoda-yoichi.jp

いつもお世話になって  
おります。  
正田でございます！



あけましておめでとうございます。議員は、年賀状でのご挨拶は、公職選挙法違反の可能性があるので、ご遠慮させていただきます。後援会の方から、他の議員さんから年賀状をもらうが正田君は出さないのかと強くご意見をいただきました。私は、新年号の議会だよりで報告させていただくこととしました。

今号では、12月議会の模様と日々の活動につきましてご報告申し上げます。

本年も変わらず、ご指導ご支援よろしくお願い致します。



## 正田洋一「日々の絆」

1

うまいもの市へ参加しました！

本町の明真寺で観光協会主催のうまいもの市があったのでお手伝いさせていただきました。明真寺といえば、知る人ぞ知る幼稚園、三原幼稚園のあったお寺で、宗光寺通りの途中に雰囲気のある古いお寺です。ここの幼稚園出身の人が、三原市内にたくさんおり、実は私もその中の一人です。このイベントの仲間に入れていただいたことに感謝です。また、山脇邸を始めとした古民家を活用したまちづくり第2弾にできるように、街の担い手として、主体的にかかわり行動していきたいと思っております。



器用ではありませんがお手伝いしております。

私も三原幼稚園卒園生です。とてもなつかしくてうれしくて、このように市民のみなさんが集まっていたイベントを、これからも続けましょう。

# 定例議会報告

## 倒壊危険空き家の次の一手は？

**Q:** 前回の一般質問で問題提起した本町の倒壊した神社の解体が終了し、危険が除去された。市職員の皆様の真摯な対応には感謝をしたい。しかし、本件は、一件の問題空き家を解決したに過ぎず、空き家の特措法の意義はこの先の空き家対策にある。今後、市内各地の倒壊危険空き家は、市民や町内からの通報ベースで対応していくのか、それとも全市的に除却を進めていくように取り組んで行くのかを聞く。土地には資産価値があり、解体する費用を差し引いて売却できるようなインセンティブ設計にも取り組むべきではないか。土地の有効活用（流動化）が人口獲得に寄与する。速く取り組むことが一番のチャンスと考える。



私の地元にある倒壊の恐れのある家屋。また他にも・・・

**A:** 本件は、昨年度から行った実態調査が今年度完了する。今後、空き家を低度、軽度、重度1、重度2に分ける。放置すると危険な重度2の空き家については、通報ベースの受け身ではなく、市から積極的に所有者と連絡を取り空き家の除却を推進する。また、解体する費用を差し引いて買い取る、無償提供をうけるなどの施策は、他都市の事例を情報収集し、空き家等対策協議会のメンバーの専門的な意見も踏まえて、また、国の財政上措置も活用し、対策を推進したい。

### ●まとめ

本町の倒壊危険空き家の問題が解決して良かったが、その経験を生かし、今後市内全域の危険空き家の除却に取り組むように働きかけをしたかったので、質問の目的は達成したと理解します。現実としては、来年度の実行の段階のプロセスのチェックが、今後のポイントだと思います。引き続き課題として捉えています。

## 三原城の堀に不法投棄された碇子処理の顛末は？

**Q:** 三原城の堀への碇子（がいし）の不法投棄がニュースとなった。私の理解では、本件に関して、市民・議会への報告がなく、どのような対応をされたのか明らかにされていない。本件に関して抗議したのか、行政処分をしたのか、何もしていないのか。事の顛末を市民へ説明を求める。



平成 28 年 10 月 1 日に市民参加で行われた堀の大そうじ風景  
○印あたりに大量の碇子が投棄されていた。

**A:** 本件については、今年度のかい堀り実施する段階の調査で、白い碇子が不法投棄された事が確認された。昭和 30 年頃、堀の西側にあった、株式会社中電工さんに連絡をとったところ、自社からの投棄の可能性が高く自主回収するとの回答をもらった。不法投棄は法令にふれる行為であり、大変遺憾であると伝えるとともに自主回収を指示し、会社側からは市長、教育長へ経過報告および謝罪が行われた。広島県からは廃棄物適正処理の通知文が出た。多くの市民への説明不足について反省し、文化財保護に一層努力する。

**Q:** 経過はこの場で説明してもらったので理解した。30 年以上前の事で行政処分を求めるつもりはない。市民に説明ないままにうやむやにされたことを問題としている。広報媒体などで説明をし、幕引きをはかるべきではないか。

**A:** マスメディアの情報によって事の発生が周知されたことについては、深く反省している。今後は、適宜、情報提供の徹底をはかっていく。

### ●まとめ

この質問の目的は、事の顛末の説明であり、公開の場で説明されて良かったと思います。ガラス張り市政と公約された天満市長も、本件を含め、様々な場面で情報公開に問題があるのではないかと思います。このあたりは、今後も質問していきたいと思います。

ココに注目!

Yoichi column

## こだわりをいわせてください!

私個人の思いをここに書かせていただきます。  
是非ご意見、ご指導ください。

### 私の考える議員の役割と意義とお願い

政務活動費問題に利権問題、昨今、自覚の足りない議員を大量生産する地方議会。選挙は、今やキャンペーンの勝負で、ひたすら利益誘導とパフォーマンス勝負、三原市でも議会や委員会に欠席し、地域活動に参加する議員まで出る始末です。  
また、最近流行の政治塾の多くは、政策ではなく、選挙のためのスクールと化しています。

そんな地方議会の現状の中で、私が考える地方議員の役割とは、2元代表制の基本に立ち返り、市民の側の代表として、執行側の長である市長（市役所）に対し、政策論で対決し、限られた財源の中で、いかに必要な施策を取捨選択し、市民福祉向上を進めることだと思えます。

繰り返しになりますが、市民の側の代表は議員であり、私はここに強いこだわりを持っています。ただ、市民の側で意見を発するはずの議員が、市長の取り巻きとなり、市長の提案はなんでもOKの議決を行う。そして、市長は自分の思うようにやりたいために、利権や癒着が生まれる。これが議会は必要ないと言われる原因ではないかと思えます。  
ただ、想像してみてください。議会がチェック機能を失えば、市政は市長一人の判断となり、誰も止められなくなるのです。

ところで、街で私は、反市長派だとよく言われます。市長とは、対立しているのではなく、全ての提案に対して、是々非々なのです。市民福祉向上に対する思いは、議員も市長も同じで、やり方の最善の方法について、意見の違いをふつけあうことが議論だと思えます。  
個人的には市長や副市長や理事者とお酒を飲むこともありますし、熱く語ることもあります。対立している訳ではありません。ただ、議会では、徹底抗戦することはあります。

大変生意気な事を書かせていただきましたが、私の議員としての強い思いであり、今後もこのようにしていきたいと思えます。  
そこでお願ひがあります！議会の場に足をお運びいただきたくお願ひします。ちょうどゆめキャリアセンター（館町）に議会棟が移転し、前よりも入りやすくなっています。是非とも3月議会にはお越しください。ご一報をいただければご案内致します。

特に議会で、見ていただきたいのは、一般質問の場です。誰がどのような主張をするのか見られると思えます。また、指摘は的確か？提案は実現可能か？なども見ていただけると良いかと思えます。私は課題を一步でも進めるように質問に取り組んでいるつもりです。見ていただいた感想やご指摘をいただけると幸いです。パフォーマンスや利益誘導だけでなく、政策力、実行力で市長や議員も評価していただきたいと思えます。頑張ります！

# 私のやらなければいけないこと

やらんといけん!  
どんなことでも!

## 1. 市民の意見を聞き施策に反映する

地域の意見を聞き施策に反映することはもちろん、20代、30代、40代の若い世代の代弁者になる。また、対話会を通じて活発な議論を行い、若い世代の政治参加を推進します。

## 2. 情報公開と双方向の議論推進

市政の情報公開の推進とともに ICT 等を積極的に活用し、双方向の議論を行う。市民の合意形成（市民が納得できる・合意できる）を重視する。また、すべての議論には多種多様な意見があり、単純に賛成・反対の議論ではなくよりよい方向に導くよう努力する。議論の先送りをしない。

## 3. 地域活性化の推進

地域活性化とは、「人と人とのつながり」、「生活環境整備」、「ビジネス環境整備」から人口減少を食い止める事もしくは人口増を実現する事だと考えます。人と人とのつながりは、街を元気にするためのポイントですが、それだけでは課題解決はできません。魅力を高める街づくりとして「ビジネス環境の整備」、「生活環境の整備」を推進し、「生活都市三原」の構築を行います。

## 4. 地域スランド化

三原という地域が一つのスランドとして、魅力的な三原スランドを市外に発信します。市民協働で三原スランドを育成することにより市民の誇りを高めます。その一人の担い手として先頭に立ちます。

# 2



毎年サンタクロースになってるんです!

12月24日に広島市周辺で子ども達にプレゼントと夢を届ける活動をします。この活動は、NPO法人のチャリティーサンタという全国組織がおこなっているもので、サンタさんが家に来て、プレゼントを届けるというものです。この活動では、事前に親ごさんからいただいた情報をもとに、子ども達が、普段がんばっていること、これからがんばって欲しいことなどをサンタさんになりきって、プレゼントと一緒に届ける活動です。サンタさんになる僕たちは、講座を受けるのが必須で、サンタの本物感を演出するためのトレーニングをしてから当日に望みます。実は一昨年から参加させていただいている活動ですが、私の目標には、三原でも開催したいという思いがあります。一昨年は3件のお宅に伺いましたが、サンタさんになる僕らも感動します。一昨年にお伺いしたおかあさんからメッセージをいただきました。緊張して私がとっさに言った、「お母さんを大切にするんだよ」という言葉で子どもの普段の態度が変わったというものでした。実はこの原稿は、12月24日より前に書いています。28年12月24日も頑張ってきます。写真はトレーニングの時の模様です。NHKの特集取材も来られ余計に緊張しました。



わかりにくいですが・・・わたしです!



NHKの取材にみんなドキドキしてました。